

令和6年 7月 30 日

## 2023 年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 見てみようよ！常総市の会

代表者・役職名 氏名 染谷みどり

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

水害の記憶を未来につなぐ web 版『水害資料館(仮称)』構築

### 2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

平成 27 年関東東北豪雨災害の翌年に安全なまちづくりを考えるワークショップに集まった有志が水害記憶継承を目的に団体を設立、街中の施設に洪水水位高を示すステッカーを施設オーナーの了解を得た上で貼って歩きながらその方を語り部にお話をきく『ステッカーツアー』を開始しました。その後も『復興まちあるきツアー』や『川を知るカヌー教室』、被災者証言映像記録など様々な水害伝承企画を実施してきています。

### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

平成 27 年(2015 年)9 月の関東東北豪雨で市内を流れる鬼怒川堤防が決壊、市中が水に浸かる大水害を受けた常総市において、水害の記憶を風化させず、“川とともに生きる”まちの歴史と文化を掘り下げながら、防災啓蒙を市民の手で進めていくという団体設立当初の目的は変わりません。水害後既に9年近くが経過し被災者の高齢化と記憶の風化が進みつつあり、被災者の証言を映像・アーカイブ化し、次世代に“水害のリアル”を伝えていくことが今必要と考えています。当該プロジェクトは、また、約 1 年後(2025 年 9 月)の「水害 10 年」を目指し活動を継続させることも目指しています。

### 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

被災者の記憶も風化していくことから、被災証言の映像記録を早期に進めていくべく近年活動を推進してきているが、教訓に満ちたこの証言集を多くの人に共有したく、また、復興過程でボランティアに助けられたことのエピソードも多くの市民が持っており、これらのアーカイブ化の方法を検討していた。このことから、「会の HP」としてではなく、多くの市民が当時の資料やエピソードを持ち寄りそれを集積・公開していくweb版「常総水害資料館」を開設したいと考え、令和5年度はこのweb版「常総水害資料館」(サイト)を正式に構築して、公開した。このサイト構築と併せて同サイト中に盛り込むコンテンツとして映像証言記録も新たに5人分を収録し、同サイトに実装した。

### 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

サイトという“発信コミュニケーションのよりどころ”を得たことで、伝承活動の幅を一段と拡げ強化できる基盤を有することとなった。新しい共感者との出会いもあり、これまでのメンバーだけの発想からさらに一歩進んだ展開を構想できるようになった。具体的には、市と正式に話し合い(2024年2月市長プレゼン)、水害10年となる2025年9月に向けて、行政(常総市)と市民が協働で、水害10年のメモリアルプロジェクトを推進していくことが合意された。このコンセプトは、水害十年の節目における改めての防災警鐘・記憶継承に、被災時に全国から集まっていたボランティアの方々に「(復興なった常総市に)再度訪問してください」とよびかける観光誘客キャンペーンを重ねて展開していくとするものである。市には予算措置もお願いし、伝承活動と観光誘客を一体で推進するプロジェクトを2024年7月現在準備中である。

## 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

上記の官民協働プロジェクトに向けて多くの市民の協力体制と、何より市民各層からの“被災時に来訪いただいたボランティアへの感謝メッセージ”を多く集める必要がある。2024年9月で水害9年を迎えるが、この機に地元CATVのJ-COMが当会の活動取材し番組化していきたいとの申し入れがあった。初回打合において、“動きがある映像を撮りたい”との局側リクエストがあり、これに応えるかたちで、2024年9月1日に、「舟運の街水海道を歩く」という、川と街の歴史をガイド付ウォークツアーで廻るイベントを企画することになった。水害10年に向けての一年間のプロジェクトのキックオフイベントとして是非成功させたい。

## 7. 参考資料: プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。



被災者証言映像上映会よ



防災食づくり(防災食試食会)



水海道八幡神社宮司による、水害時氾濫した八間堀川の岸辺に立つ明治43年の水害記録費の解説



水海道八幡神社宮司による、水害の歴史講話



今後の官民連携水害十年祈念プロジェクトについての市長面談